

(様式3号)

## 学 位 論 文 の 要 旨

氏名 脇口 宏之

### 〔題名〕

Relationship between T-cell HLA-DR expression and intravenous immunoglobulin treatment response in Kawasaki disease

(川崎病におけるT細胞のHLA-DR発現と免疫グロブリン療法の反応性との関係)

### 〔要旨〕

【目的】川崎病(KD)は血管炎による小児急性熱性疾患であり、標準治療は免疫グロブリン大量療法(IVIG)が知られている。しかし、約15%のKD患者にIVIGは不応であり、その病態は不明である。我々は、KDにおけるT細胞の活性化に着目し、IVIG不応との関係について検討した。

【方法】2007年10月から2012年2月までに当科に入院した急性期のKD患者82名を対象とした。そのうち51名はIVIG有効例、31名はIVIG不応例であった。IVIG有効群とIVIG不応群における末梢血T細胞のHLA-DR発現をフローサイトメトリー法で測定した。

【結果】HLA-DR陽性CD4陽性T細胞/CD4陽性T細胞比(%)ならびにHLA-DR陽性CD8陽性T細胞/CD8陽性T細胞比(%)は、いずれもIVIG有効群ではIVIG不応群に比し、有意に低かった。

【結論】KDにおいてT細胞のHLA-DR発現がIVIG反応性と関係しており、CD4およびCD8陽性T細胞におけるHLA-DR発現がKD患者のIVIG反応性を予測するバイオマーカーになる可能性が示唆された。

## 学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1425 号	氏 名	脇口 宏之
論文審査担当者	主査教授	田邊 剛	
	副査教授	園田 康平	
	副査教授	大賀 正一	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Relationship between T-cell HLA-DR expression and intravenous immunoglobulin treatment response in Kawasaki disease (川崎病における T 細胞の HLA-DR 発現と免疫グロブリン療法の反応性との関係)			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Relationship between T-cell HLA-DR expression and intravenous immunoglobulin treatment response in Kawasaki disease (川崎病における T 細胞の HLA-DR 発現と免疫グロブリン療法の反応性との関係)			
掲載雑誌名 Pediatric Research 第 77 巻 第 4 号 P.536 ~ 540 (2015 年 4 月 掲載)			
(論文審査の要旨)			
<p>【目的】川崎病 (KD) は血管炎による小児急性熱性疾患であり、標準治療は免疫グロブリン大量療法 (IVIG) が知られている。しかし、約 15% の KD 患者に IVIG は不応であり、その病態は不明である。我々は、KD における T 細胞の活性化に着目し、IVIG 不応との関係について検討した。</p> <p>【方法】2007 年 10 月から 2012 年 2 月までに山口大学医学部附属病院小児科に入院した急性期の KD 患者 82 名を対象とした。そのうち 51 名は IVIG 有効例、31 名は IVIG 不応例であった。IVIG 有効群と IVIG 不応群における末梢血 T 細胞の HLA-DR 発現をフローサイトメトリー法で測定した。</p> <p>【結果】HLA-DR 陽性 CD4 陽性 T 細胞/CD4 陽性 T 細胞比 (%) ならびに HLA-DR 陽性 CD8 陽性 T 細胞/CD8 陽性 T 細胞比 (%) は、いずれも IVIG 有効群では IVIG 不応群に比し、有意に低かった。</p> <p>【結論】KD において T 細胞の HLA-DR 発現が IVIG 反応性と関係しており、CD4 および CD8 陽性 T 細胞における HLA-DR 発現が KD 患者の IVIG 反応性を予測するバイオマーカーになる可能性が示唆された。また、IVIG 不応川崎病患者児に対しては T 細胞の活性化を抑制することが適切な治療になる可能性も示唆された。</p>			
本論文は、川崎病における T 細胞の HLA-DR 発現と免疫グロブリン療法の反応性との関係を報告したものであり、学位論文として価値あるものであると認める。			